

# 地理学関連科目の大人数授業における 履修学生アンケートに基づく授業評価

## Class evaluation based on student questionnaires in geography-related subjects

三 原 昌 巳

### Abstract

This paper discusses on class evaluation for large-sized, geography-related subjects by questionnaire survey. Because it is difficult to hear opinions of each students in lectures of large numbers in universities, questionnaire survey for teaching evaluation provides important material for teachers. The results are as follows. There are many students answered the speed of classes and the quantity of lessons are just right. However some students feel that difficulty level of class is somewhat difficult. There are few students to prepare for the lessons. Their preparation includes viewing their atlas or collecting information for study. Many students answered that the number of tasks and the degree of difficulty are just right. Presenting maps and place names beforehand may make it easier for students to prepare the lessons of geography-related subjects.

### Keywords

class evaluation, geography-related subjects, questionnaire survey, large-sized classes, map  
授業評価 地理学関連科目 アンケート 大人数授業 地図

## 1. はじめに

2018 年 3 月告示の高等学校学習指導要領で示された地理歴史科新科目「地理総合」にみられるように、地理教育では、主体的・対話的な学びをととした学習が求められる（文部科学省 2018）。このため、地理教育に携わる教員は日々の教育現場において、さまざまな工夫を凝らし、授業を開発・実践している（宇根 2016）。一方で、豊かな授業実践のためには、学習者自身の意識を知ることが大切で、大学教育においては授業アンケートがその手掛かりとなる。昨今、FD に関連し、学生による授業アンケートが、国内のほとんどの大学で実施されている。とくに履修学生の多い、大人数授業においては、担当教員は履修学生との個別の対話が難しく、履修学生の意見を知る機会を持ちにくい。このため、大人数授業の担当教員にとっては、授業アンケートが授業改善のための重要な資料となる。

しかしながら、大学による授業アンケートが担当教員による授業改善へとつながるためには、少し課題が見受けられる。まず、授業アンケートの実施時期である。多くの授業アンケートが、学期終了間近あるいは学期終了後に実施される。担当教員にその結果が届けられるのは学期終了後しばらく経過してからであり、担当教員が学期中においてアンケート結果を参考にして授業改善に臨むことは、ほぼ不可能である。また、大学による授業アンケートは、ほぼ全ての授業において利用できるような、共通のアンケート票となっている。そのため、担当教員が履修学生に対し質問したい項目が必ずしも含まれていないケースも考えられる。

そこで本研究は、大人数授業である「地理学（含む地誌）」「人文地理学Ⅰ」の履修学生に対して授業評価に関するアンケート調査を個別に実施し、地理教育の授業改善に資する基礎資料を得ることを目的とした。

## 2. 対象と方法

本研究の対象は2018年度前期に「地理学（含む地誌）」（月曜3限開講）、「人文地理学Ⅰ」（月曜4限開講（以下、①と表記）・水曜2限開講（以下、②と表記））を履修した学生である。3つの授業とも履修学生が100名を超える大人数授業である。履修学生の詳細は次のとおりである。「地理学（含む地誌）」の履修学生は、法学部80名（法律51、自治行政29）、経済学部68名（経済63、現代ビジネス5）、人間科学部（人間科学科）12名の160名（試験欠席者7名を除く実履修者153名）である。「人文地理学Ⅰ①」の履修者は、法学部10名（法律4、自治行政6）、経済学部40名（経済22、現代ビジネス18）、外国語学部21名（英語英文10、スペイン8、国際文化3）、人間科学部（人間科学科）16名、工学部73名（機械工15、電気電子5、物質生命17、情報創成6、建築29、経営工1）の160名（試験欠席者17名を除く実履修者は143名）である。「人文地理学Ⅰ②」の履修学生は、法学部21名（法律16、自治行政5）、経済学部72名（経済61、現代ビジネス11）、外国語学部15名（英語英文4、スペイン2、中国語5、国際文化4）、人間科学部（人間科学科）8名、工学部28名（機械工5、電気電子10、物質生命5、情報創成1、建築3、経営工4）の144名（試験欠席者15名を除く実履修者は129名）である。

「地理学（含む地誌）」「人文地理学Ⅰ」の授業計画を表1に示した。全て講義形式であり、穴埋め形式のプリントの配布とスライドへの投影を主とする講義を行った。全14回分の講義を行い、試験は定期試験期間内にそれぞれ実施した。

表1 「地理学（含む地誌）」・「人文地理学Ⅰ」の授業計画（シラバス）

地理学（含む地誌）	人文地理学Ⅰ
1 ガイダンス：地理学と地誌学	1 ガイダンス：人文地理学の対象と諸分野
2 日本列島の成立	2 人類の世界観
3 日本の地形	3 近代地理学の系譜
4 日本の気候	4 人文地理学の地図表現
5 日本の自然災害と防災	5 孤立国
6 日本の人口①人口増減と分布	6 工業立地論
7 日本の人口②人口構造の変化	7 産業立地論
8 日本の産業①1次産業	8 都市システム
9 日本の産業②2次産業	9 交通、流通と地理学
10 日本の産業③3次産業	10 メンタルマップ、居住選好
11 地誌学からみた日本の都市	11 地域イメージ
12 地誌学からみた日本の観光	12 地域間格差
13 地誌学からみた日本の環境	13 災害と地理学
14 まとめと再考	14 まとめと再考

アンケートは、授業計画の中間にあたる第7回を1回目とし、また、後半にあたる第13回を2回目とし、計2回実施した。実施日はそれぞれ、「地理学（含む地誌）」「人文地理学Ⅰ①」は5月28日と7月9日、「人文地理学Ⅰ②」は5月30日と7月11日であった。いずれも授業時間内に出席者に対し、アンケートの主旨を伝え、成績に一切影響がないことを口頭で説明し、記入の了解を得た。アンケート票の配布・回収も授業時間内に行った。

回答数（括弧内は履修学生に対する割合）は、「地理学（含む地誌）」の1回目が135名（84.4%）、2回目が142名（88.8%）で、「人文地理学Ⅰ①」の1回目が137名（85.6%）、2回目が133名（83.1%）、「人文地理学Ⅰ②」の1回目が115人（82.1%）、2回目が120人（85.7%）であった。

質問項目は、1回目と2回目に共通する内容として、選択式で授業の速度（1 速い 2 やや速い 3 ちょうど良い 4 やや遅い 5 遅い）、授業の難易度（1 難しい 2 やや難しい 3 ちょうど良い 4 やや易しい 5 易しい）、授業の分量（1 多い 2 やや多い 3 ちょうど良い 4 やや少ない 5 少ない）、個人の学習（予習）（1 参考書を読んだ 2 情報の収集をした 3 地図帳で地名を確認した 4 予習はしていない 5 その他）（複数回答可）、個人の学習（復習）（1 配布物を見直した 2 参考書を読んだ 3 情報の収集をした 4 地図帳で地名を確認した 5 復習はしていない）（複数回答可）、自由記述で「意見など」を尋ねた。アンケート2回目のみの質問項目では、課題の回数（1 多い 2 やや多い 3 ちょうど良い 4 やや少ない 5 少ない）と課題の難易度（1 難しい 2 やや難しい 3 ちょうど良い 4 やや易しい 5 易しい）を選択式で尋ねた。

### 3. 結果

授業の速度についての回答は、図1に示すとおりである。全ての授業において、アンケート1回目と2回目のいずれも、最も多い回答は「ちょうど良い」で、65.4～84.3%で占めた。

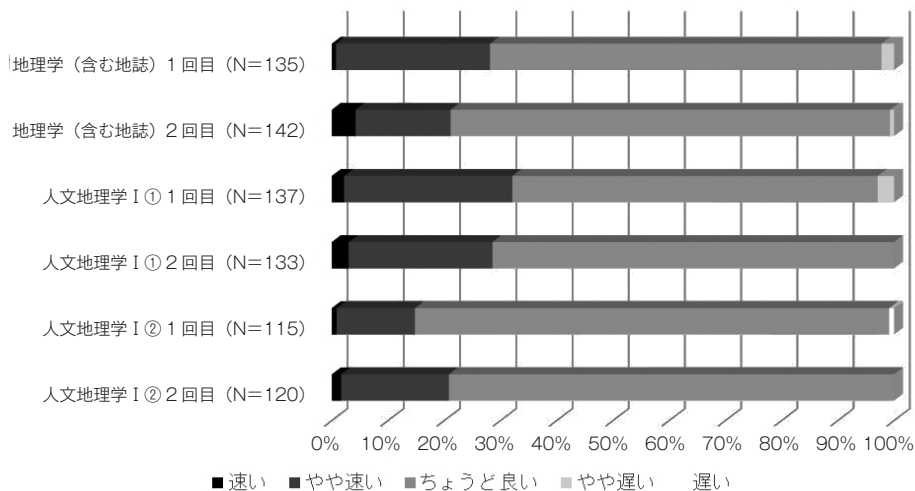


図1 授業の速度についての回答

授業の難易度についての回答は、図2に示すとおりである。「地理学（含む地誌）」では、アンケート1回目と2回目のいずれも、最も多い回答は「ちょうど良い」であった。「人文地理学Ⅰ」では、アンケート1回目での最も多い回答は「やや難しい」であるが、アンケート2回目での最も多い回答は「ちょうど良い」であった。

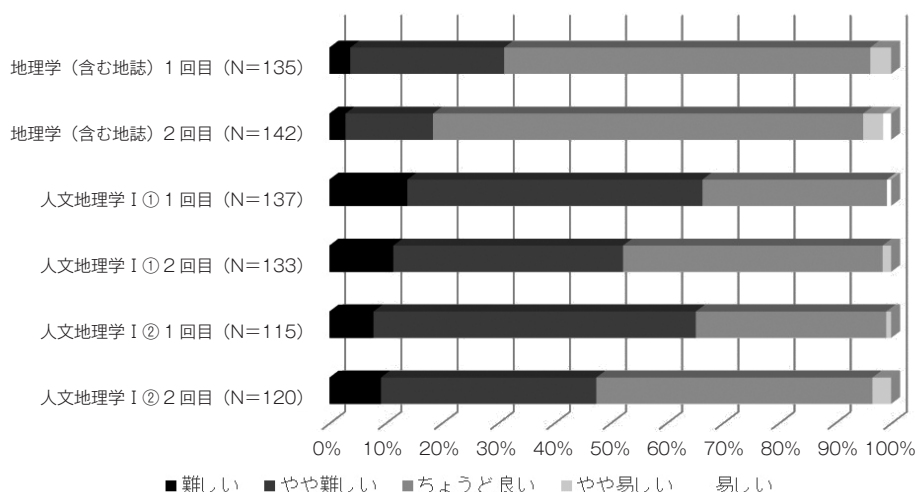


図2 授業の難易度についての回答

授業の分量についての回答は、図3に示すとおりである。全ての授業において、アンケート1回目と2回目のいずれも、最も多い回答は「ちょうど良い」で、70.0～76.6%を占めた。

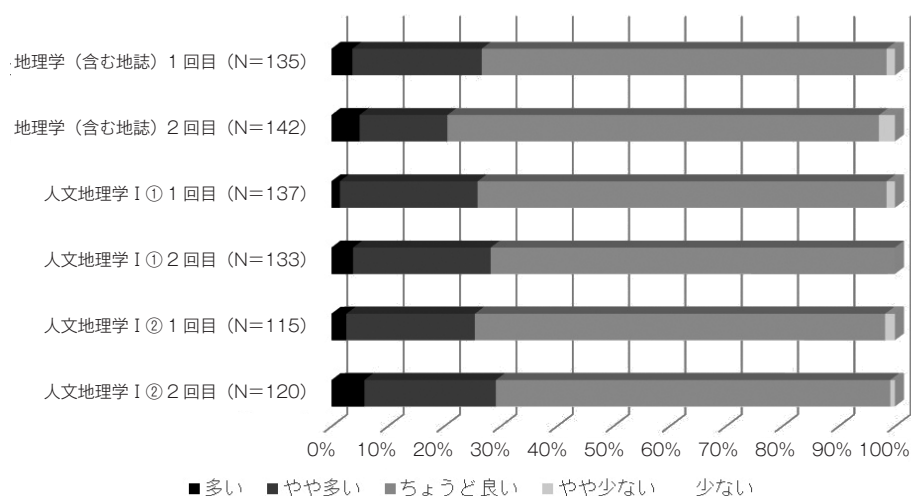


図3 授業の分量についての回答

個人の学習（予習）についての回答は、表2に示すとおりである。全ての授業において、アンケート1回目と2回目のいずれも、最も多い回答は「予習はしていない」であった。「予習をした」と回答した者について、予習の内容は開講科目によって違いがみられた。「地理学（含む地誌）」では、アンケート1回目での最も多い回答は「地図帳で地名を確認した」であったが、アンケート2回目での最も多い回答は「情報の収集をした」であった。「人文地理学I」では、アンケート1回目と2回目のいずれも、最も多い回答は「情報の収集をした」であった。なお、「その他」の空欄にみられた「インターネットで地名を調べた（検索した）」との回答については、「情報の収集をした」にまとめた。

表2 個人の学習（予習）についての回答

予習の内容	回数	参考書を 読んだ	情報の収集を した	地図帳で地名 を確認した	予習はして ない	回答数（人）
地理学（含む地誌）	1 回目	1.5%	10.6%	14.4%	74.2%	132
地理学（含む地誌）	2 回目	5.8%	17.3%	10.1%	69.8%	139
人文地理学Ⅰ①	1 回目	0.0%	16.2%	11.8%	75.7%	136
人文地理学Ⅰ①	2 回目	2.3%	18.0%	6.0%	75.2%	133
人文地理学Ⅰ②	1 回目	4.3%	19.1%	7.0%	72.2%	115
人文地理学Ⅰ②	2 回目	5.0%	20.0%	5.0%	70.8%	120

個人の学習（復習）についての回答は、表3に示すとおりである。全ての授業において、アンケート1回目と2回目のいずれも、何らかの復習をした者が、復習をしていない者よりも多い。また、全ての授業において、アンケート1回目と2回目のいずれも、復習の内容について最も多い回答は「配布物を見直した」であった。

表3 個人の学習（復習）についての回答

復習の内容	回数	配布物を見直した	参考書を 読んだ	情報の収集を した	地図帳で地名 を確認した	復習はして いない	回答数（人）
地理学（含む地誌）	1 回目	67.9%	2.2%	9.0%	9.0%	20.9%	134
地理学（含む地誌）	2 回目	61.7%	1.4%	7.8%	4.3%	30.5%	141
人文地理学Ⅰ①	1 回目	48.9%	1.5%	11.7%	5.1%	40.1%	137
人文地理学Ⅰ①	2 回目	47.7%	0.8%	10.8%	3.1%	42.3%	130
人文地理学Ⅰ②	1 回目	70.4%	1.7%	13.9%	6.1%	18.3%	115
人文地理学Ⅰ②	2 回目	61.7%	1.7%	13.3%	4.2%	28.3%	120

さらに、授業の速度・難易度・分量と、予習・復習の有無の関連について検討してみると、授業の難易度と予習の有無には有意な差がみられた（ $p<0.05$ ）。予習なし群は、予習あり群に比して、授業の難易度を「難しい」「やや難しい」と多く答えていた。

課題の回数についての回答は、表4に示すとおりである。全ての授業において、最も多い回答は「ちょうど良い」で、88.0～88.3%を占めた。

表4 課題の回数についての回答

課題の回数	多い	やや多い	ちょうど良い	やや少ない	少ない	回答数（人）
地理学（含む地誌）	5.6%	6.3%	88.0%	0.0%	0.0%	142
人文地理学Ⅰ①	2.2%	9.6%	88.1%	0.0%	0.0%	135
人文地理学Ⅰ②	0.0%	11.7%	88.3%	0.0%	0.0%	120

「地理学（含む地誌）」では、履修学生に対し、地域ブランドに関する調べを持ち帰りの課題、地図を利用した作業（ボロノイ分割）を授業内の課題とし、計2回の課題提出を求めた。「人文地理学Ⅰ」では、履修学生に対し、製造業事業所の立地に関する調べ、景観写真の撮影および好きな景観・嫌いな景

観の考察を持ち帰りの課題、手書き地図を授業内の課題とし、計3回の課題提出を求めた。

課題の難易度についての回答は、表5に示すとおりである。全ての授業において、最も多い回答は「ちょうど良い」で、69.2～80.3%を占めた。

表5 課題の難易度についての回答

課題の難易度	難しい	やや難しい	ちょうど良い	やや易しい	易しい	回答数（人）
地理学（含む地誌）	1.4%	13.4%	80.3%	3.5%	1.4%	142
人文地理学Ⅰ①	2.3%	17.6%	76.3%	3.1%	0.8%	131
人文地理学Ⅰ②	5.0%	20.8%	69.2%	2.5%	2.5%	120

自由記述では、「質問を共有することができ、私も理解を深めることができたので良かったです。」「ややメモが多く、穴埋めも多くカッコの場所とかわかりづらかったり、大きさが不適切だったり……しかし聞きやすい授業ではありました!!」「教室を広げてほしい」「レジュメに記入スペースがあり手を動かしながら一緒に記憶をしてもらおうということなのかと思います。しかし、文章をいくつも書くのはめんどくさいし、記入スペースが分かりづらい時が多々あります。授業の分量自体は多くないですが記入がノートにまとめる以上に煩わしい。」など様々な意見がみられた。

#### 4. 授業改善の実践

授業の中間にあたる第7回にてアンケートを実施したことにより、以下のような授業計画の見直しを図った。まず、授業の速度は「ちょうど良い」との回答が多いものの、授業の進め方が早く感じる履修学生がいることを念頭に置き、履修学生が集中してメモを取ることができるよう記入時間を多めにとり、スライドの切り替えを遅くするよう努めた。授業での配布プリントは穴埋め式である。そのため、配布プリントの文字とスライドの文字を整合するには時間がかかる。とくに大人数授業では、前方の座席の確保が難しく、教室内でスライドから離れた位置に着席しなくてはならない履修学生が見受けられる。使用教室は、教室前方左にスライド1台のみが整備されていた。その結果、スライドとプリントの整合作業は少なからぬ負担になったと考えられる。その一方で、シラバス記載済みの授業計画の内容を踏襲すべく、授業の分量についてはこれまで通りとした。アンケートを実施した時期は、100分授業が開始された最初の学期であった。そのため、毎回100分授業で予定された授業計画を維持するために必然的に授業の分量が多くなっている。これに対し、授業の難易度で授業改善を試みた。例えば、配布プリントは、授業の分量が多いという印象を避けるため、要点のみをまとめたものとしていた。そのため、履修学生は単語と単語のつながりを授業内で全て理解する必要があった。そこで、授業中に耳だけでなく、視覚的にも情報を確認できるよう、配布プリントには事象間のつながりがとらえやすい文章を多用するようにした。このような配布プリントは、授業時間外学習の一助にもなったと思われる。

他方、アンケートの結果において、授業の難易度と履修学生の予習の有無とのあいだには、有意な関係が示唆された。予習をしていない履修学生には授業の難易度を「難しい」、「やや難しい」と回答する者が多かった。予習をしない理由としては、授業が難しくて予習を放棄する（やる気にならない）のか、予習をしないがゆえに毎回の授業が難しく感じるのかは明らかでない。しかし、「予習をした」と答える履修学生が多くないのに比して、復習については、「配布物を見直した」と答える履修学生が多くいることが分かった。そうしたことから、予習の具体的な資料や手段について、あらかじめ担当教員が明示することで、履修学生は予習に取り組みやすくなる可能性があるといえる。さらに、予習の内容



では、「地図帳で地名を確認した」「情報の収集をした」が多くみられ、地理学関連科目における地図帳の効用が示唆された。このような予習方法に担当教員が指導を付け加えるようとするならば、例えば、次の授業で話題にする地名の事前提示などが挙げられる。これにより、履修学生は、地名の位置やその地名にまつわる多くの知識などを予習することができる。シラバスには、高等学校までの地図帳で構わないので地図帳を用意するように、との指示が入れているが、実際には、高等学校までに使用した地図帳をすでに処分し、所有していない履修学生が多くみられる。そうした場合においても、担当教員が履修学生に授業で取り扱う予定の地名をあらかじめ提示することで、授業時間外に大学図書館などで地図帳を確認したり、ウェブ上での地名検索をしたりすることができる。また、履修学生に対し、白地図の配布と地図内への記入指示なども、授業時間外学習への有効な動機付けであると思われる。酒井(2016)においても、地図帳を活用した授業に対する好意的な学生の感想が多いことが述べられており、地図帳を活用した授業づくりは履修学生の地理学関連科目に対する興味・関心を大きくさせ、学習効果が期待できる。

ただし、授業の予習を提出課題として位置づけた場合には、課題のチェックが担当教員にとって大きな負担となりうる。本対象の授業ではTAを配置していないが、大人数授業ではTAへの負担が危惧されるとの指摘もある(森川 2010)。学生側にとっても、課題の回数を「やや少ない」、「少ない」と回答する者が皆無であったように、履修学生に対して、むやみに課題の提出を求めることは効果的でないと思われる。それよりも、予習しやすい授業の組立てなどに一層注力することなどを通して、担当教員が履修学生を授業時間外学習へと導くことが授業の理解につながるのではなかろうか。担当教員の有効な働きかけは少人数の一般的な授業と変わらず、大人数授業でも意義がある(中井 2006)。

最後に、予習の内容で、あまり確認できなかった参考書の活用についてである。シラバスは学生にとっては履修選択するための情報であるとともに、学びの指針であり、そこには参考図書が明示されている。シラバスのみならず、授業時間内にも複数回にわたって参考図書を紹介してきたが、履修学生の内発的動機付けには至らなかった。大人数授業に出席する学生は、教科書の利用よりもプリントの利用を好むとの調査結果もみられ(大矢 2016)、参考図書の紹介だけでは履修学生の学習意欲に結び付いていないことが示唆される。参考図書の提示方法については、今後の履修学生の学習方法や学習内容を探索しながら十分に検討していきたい。

## 5. おわりに

本研究では、大人数授業の地理学関連科目での授業アンケートの分析により、地理教育の授業改善に役立てる基礎資料を得ることを目的とした。全てのアンケート実施において、履修学生がアンケートの記入に要する時間は5~10分程度であったため、学期中の2回のアンケートは授業時間には大きな影響はなかったと考えている。今後は従来の方法に加えて、学内のドットキャンパスなど、オンラインでのアンケート入力などの手段も検討していきたい。

本研究で対象にした地理学関連科目は、全て100人を超える大人数授業でにぎわっており、履修学生の専攻は多彩で、19学科にのぼった。ゆえに、地理学関連科目は地理学専攻でない学生にとって大学で地理学を学ぶ貴重な機会となっていると思われる。今後もより一層の工夫を凝らし、大学教育に資する、充実した地理学関連科目の授業運営を実践していきたい。

### 参考文献

宇根寛 2016. 地理教育の支援に向けた課題の整理と国土地理院の具体的取組への提言. 国土地理院時報 128: 113-122.

- 大矢芳彦 2016. 大学教養科目の大人数授業における学生の意識調査. 名古屋外国語大学外国語学部紀要 50 : 253-263.
- 酒井喜八郎 2016. 大学での社会科教育法のアクティブラーニング授業——景観レポートと地図帳活用に焦点を当てて——. 山口幸男・山本實・横山満・山田喜一・寺尾隆雄・松岡路秀・佐藤浩樹・今井英文・中牧崇編『地理教育研究の新展開』古今書院 251-263.
- 中井俊樹 2006. クラス規模は授業にどのような影響を与えるのか. 名古屋高等教育研究 6 : 5-19.
- 森川由美 2010. 大人数授業に協同学習を組み入れる有効性. 大学教育研究開発センター年報（一橋大学）2010 年度 : 73-86.
- 文部科学省 2018. 「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編」[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2014/10/01/1282000\\_3.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2014/10/01/1282000_3.pdf) (2018 年 11 月 19 日最終閲覧).